

令和6年度 赤穂中学校区小中連携教育 活動記録

1 令和6年度 小中連携教育研究部会具体的実践

- 小・中学校相互の授業研究を通して、子どもたちの実態の相互理解につとめる。
- 算数と数学の内容の系統性を把握し、指導の継続性を求めて、指導の改善を図ることにより、小・中学校9年間を見通した指導の相互理解につとめる。

2 赤穂中学校区の活動報告

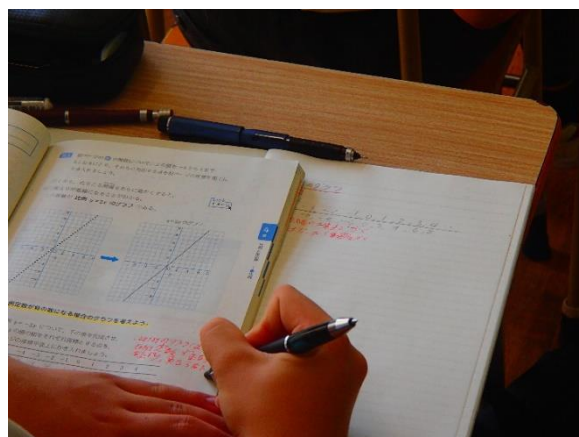
(1) 赤穂中学校

○実施日：令和6年10月18日（金）

○単 元：1年数学科「比例・反比例」

○事後協議

- ・問題の数字が変わると解けない生徒がいるため、問題の回数をこなして解き方に慣れることが必要。
- ・ $y=ax$ がどんなグラフか答えることができない生徒がいた。
- ・比例、反比例を表す表の穴埋めは比較的できているが、計算につまずく生徒が見られた。
- ・タブレットを使って、別の課題に取り組む生徒もいて個に応じた指導ができている。
- ・特に分数や小数は、中学校数学科、理科で必ず出てくるため計算を徹底させておく必要がある。
- ・単純な計算は繰り返し取り組み、計算力が落ちないようにしたい。
- ・小中ともに問題に取り組むスタートが遅い子や何をやれば分からない子もいるため、声かけや手立てが必要だ。
- ・自発的な子は副教材にも取り組み進んでいくので学習の差がどんどん広がっていくので、工夫が必要だとみられる。



(2) 城西小学校

○実施日：令和6年11月27日（水）

○単 元：6年算数科「比例と反比例」

○事後協議

- ・実際に青紙の具体物を準備して、児童の興味を引きつけ学習課題へのイメージを膨らませることができていた。
- ・個人思考、グループ思考、全体、練習問題の学習形態を工夫していた。
- ・自分や友達の考え方を自分の言葉で説明ができている時間を作り、ことばの力を高めるための工夫をしている。
- ・「枚数と重さ」「枚数と厚さ」など伴って変わる二つの量から、既習で学んだ比例関係を踏まえて問題解決に取り組めるような授業展開を行っている。
- ・単位変換、数の概念、式の表し方を小学校で何度も練習して定着させて中学校へつなげたい。
- ・分数や小数の四則計算を度々行わないと計算方法を忘れる児童もいるので、計算力が落ちないように定期的の実施させたい。
- ・友達の考えを共有したり、教えあったりする姿が見られ自分達の力で解決しようとする姿が見られた。
- ・積極的に自分の言葉で説明しようとする児童や、グループで教え合う様子が見られた。



3 まとめ

中学校に向けて、小学校では既習した学習内容をしっかりと理解しておく必要があることに気付くことができた。計算力が落ちないように日頃の授業から計算する習慣をつけたり、児童が主体的に学習に取り組んだりできるような環境づくりを目指したい。また、友達と関わり「できた」や「もっとやってみたい」という自信をもってこれからも算数の良さに気付き関わりながら中学校でも生かすことができるような授業作りを目指していきたい。

そのために、これからも小中の連携を大切にして情報共有を行い、児童生徒のつまずきや傾向を把握し、お互い協力し合って研究を積み重ねていきたい。